

ようご



発行 岩手県学校保健会
養護教諭部会
編集 広報部
平成26年9月22日
<http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>



あいさつ

会長 中沢 亮子

日頃より会員の皆様には、部会運営にご協力いただき感謝申し上げます。

本部会は県内の小中高の640余名の養護教諭をつなぐ大切な部会です。諸先輩方よりつないだ40数年の歴史を後世につないでいかなければならないと思っています。

去る5月30日(金)の定期代議員総会において、平成26年度の養護教諭部会の事業計画案並びに予算案等をご承認いただき、今年度の活動を開始しました。

おおむね例年どおりの事業計画ではありますが、その中でも第7回実践研究に関する研修会や、4年目となる東日本大震災支援対策委員会の活動は、今後とも会員各位のご協力をいただきながら内容のある事業と

して続けて参りたいと考えております。また、全国養護教諭連絡協議会と連携し、事業等をお知らせすると共に教育職員としての養護教諭の専門性の発展を目指して参りたいと思います。

今年度の第38回岩手県養護教諭研究大会は11月13日(木)に開催されます。研究主題を「時代の変化に対応した養護教諭の役割と専門性の追求」とし、午前は、早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 河村茂雄先生をお招きし「キーマンとしての養護教諭からの情報提供」と題して講演を頂きます。午後は4つの班別研究協議会を実施します。皆様にとって実り多い1日となるよう現在、役員・常任理事・地区理事の皆様と共に準備を進めております。是非多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

終わりに、本会は今後も健康教育推進のために研究や研修を充実させ、会員の皆様に情報発信するよう努めて参りたいと考えております。引き続きご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

《東日本大震災支援対策委員会より》

東日本大震災支援対策委員長 岩崎 紀子

今年度で本委員会は、発足から4年目となります。復興状況については、地区によって様々と伺っています。

さて、本委員会はこれまで被災地区への学校訪問を行い、幾つかの学校の様子を拝見させていただきながら、訪問校に集まってくださった方々から勤務校の状況や要望などを伺う活動を続けてきています。また、会員の皆様のご協力をいただき、刻々と変化する学校現場の状況、子どもたちの状況、保健室の状況、ニーズなどの情報を整理して『会員の声』として記録を残しているところです。

今年度も、学校訪問の実施と会員の皆様からの『会員の声』を募る活動を継続していく予定です。ご協力いただける方からの貴重な声をお寄せいただき、そこからまた本委員会でできる活動を見つけていきたいと考えています。沿岸地区から内陸へ転校してきている児童・生徒も少なくない聞いています。転入生を受け入れている学校の声も多く寄せていただき、情報や課題を共有させていただきたいと思っています。寄せていただいた声を集約し、2学期中には役員会を通じて

皆様にお知らせする予定です。

また、11月の研究大会では、保健室経営の中で役に立つ具体的な資料となるよう、昨年度に引き続き、『災害時の持ち出しグッズ』や『マニュアル冊子』、『けせんちゃんマニュアル』を参考にした各学校での取り組みの様子を展示紹介するブースを設けます。当日はお昼休み時間などを利用して、ぜひごらんください。

今後も皆様のご協力をいただきながら、活動して参りたいと思います。



昨年度学校訪問の様子 宮古第一中学校にて校長室にて6人の先生方と支援対策委員の交流の様子

定期代議員総会

5月30日(金)、いわて県民情報交流センター（アイーナ）に於いて平成26年度岩手県学校保健会養護教諭部会定期代議員総会が開催されました。来賓として、岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課総括課長の八木浩之様にご臨席を賜りました。冒頭の中沢会長の挨拶の中で、「健康いわて21プラン 口腔の健康づくり推進計画中間案」に対するパブリックコメントについて、本会の思いを専門的・組織的に発信できた活動の成果が報告されました。

以下、承認された主たる協議内容を報告します。

《平成26年度事業計画並びに予算案について》

研究大会については、講演と班別協議会形式で11月13日木曜日の開催予定である。（11月は、開催会場の都合により金曜日開催は不可）実践研究に関する

研修会については、「養護教諭が行う実践研究の理論と実際及びまとめ方」の内容で2年間継続して行う。東日本大震災支援対策委員会活動については、活動4年目を迎え、実態調査を根拠にした新たな活動の1つとして、被災地での研修会開催等を行う。本会の予算については、消費税値上げに伴う苦しい予算執行である。また、役員体制の見直しによる予算変更がある。

《平成24年度役員体制の見直しに伴った平成25年度総括について》

概ね有効であったが、研究部と広報部の連携の明確化等、課題も見えた。活動反省を大切にし、よりよい体制を目指したい。

最後に、東日本大震災支援対策委員会委員1名の欠員について中央地区から苦しい委員選出の現状が述べられ、役員・事務局等の各地区持ち回りも視野に入れた本会の体制見直しが話題になりました。協議内容について、全会員への周知を確認し閉会しました。

（事務局員 若狭 和子）



講演「学校精神保健における養護教諭の役割」

特定医療法人智徳会 未来の風せいわ病院 地域医療連携室

養護教諭 多田 淳子氏

36年間の学校勤務後、昨年4月より精神科病院アウトリーチチーム（厚生労働省推進事業）所属を経て、現在は、医療・教育・福祉の協働を願い、医療現場で「養護教諭」として勤務しています。

【子どもたちの実態を声として】

自分というものを収める器としての体の変化、眠りを疎かにする、バーチャルな世界で遊ぶ、基本的自尊感情がしばんでいる、大人の事情に振り回され、大人のあり様に影響を受ける子どもが増えていると感じています。保健室で出会う子どもたちは、所属する集団や社会、時代の問題にいち早く警鐘を告げる存在なのではないかと考えてきました。そのような子どもたちに向き合う中でカナーの「症状の果たす役割」、マズローの「欲求段階説」を念頭におき、「症状としての言葉」に耳を傾けてきました。

【個々のケアから集団の健康度を高める健康教育へ】

子どもたちの実態、個々のケアから、学校精神保健の視点で集団の健康度を高める健康教育の必要性を感じ取ってきました。集団の健康度が上がると、子どもは本来持っている力を発揮し発達していきます。教育の力、可能性を感じます。健康教育のプログラムを考える際に根っこにあるのは、子どもの心身の問題の発症メカニズムです。レジリエンス（復元力、柔軟性）が高まることを願い予防教育のためのプログラムを精神科医と共に考え実践してきました。

【すべてのひとがいきいきと 自分らしく生きていける 地域社会づくり】

この言葉は、当院の基本理念です。病気と捉え治療がなされればうまくいくというのではなく、その人がより希望に満

ちて主体性を持ち、「自分」が保たれ、発見や学びの喜びがある、そんな暮らしになるための支援をさせていただいております。その人の強み（ストレングス）に着目することを大事に、回復の道筋（リカバリー）をそっと応援しています。これは、保健室の対応とよく似ています。

【連携・協働のために】

各種機関をカテゴリー別に一覧表に作成し活用してきました。これは他機関との連携を組み立てる上で有効です。

保護者の方との連携では「共に」という姿勢と「同意を得ること」が大切です。医療と教育の協働においては次のことが大切であると考えています。

○長期的視点に立てる。
○学校は子どもを育て見守る一つの機関・場に過ぎないことを知る。

（限界があるから連携が必要）

○柔軟な発想とチャレンジ精神。

（固定観念を捨てることも必要）

○子どもへの深い愛

○アサーション力

教育現場に独自の文化や言語があるように医療現場にも独自の文化や言語があります。「教育現場と医療現場をつなぐ通訳者」となればよいと思っています。学校内でのリエゾン機能は、養護教諭に期待されています。

【異質の知】

異質のものと出会った時に排除するのではなく解ろうとすることが大切です。新しいものを生み出す時、発展させる時、異質の知が大きな力になると考えています。

第47回 東北学校保健大会

平成26年8月4日・5日 宮城県仙台市
一関市立川崎中学校 櫻井 静江

全体会

- 「復興支援演奏」 大河原商業高等学校
ギター部の息の合った工夫された演奏で心が洗われた。復興を忘れがちな事を反省した。

1 「自ら健康な体づくりに取り組む児童の育成」

仙台市立富沢小学校

教師の発表後に小4の有志児童が、ステージでストレッチとマット運動の数々を披露した。緊張しながらも誇らしげに運動する児童たちが素晴らしかった。

競争や勝敗ではなく、体を動かすことの心地よさを体得させたいものである。

2 「未来に伝えたい南三陸のかたりべ」

志津川高校 佐藤美南さん

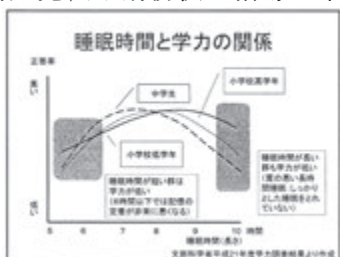
3.11大震災の被害は計り知れないが、生徒たちの心を動かし、大きく成長させていることに感動した。

基調講演「はやね・はやおき・あさごはん

～震災後の生活習慣を安定させるために～」

東北大学加齢医学研究所 所長 川島 隆太氏
養護教諭の様々な研究発表や勤務校の指導の中

で、必ず取り上げるテーマである。テーマへの深い迫り方と膨大なデータに説得力があった。脳のシナプスを機能させるためには食品数が多くほどよいこと、基



本的生活習慣が意欲や将来の幸福感を充実させることにも影響することに驚いた。自分から出るやる気と外部からのやる気がある。自分からのやる気が本物であり継続する。食事づくりは脳によい働きかけをするなど、今後の指導に生かすべき内容で学ぶことが多かった。

分科会 性に関する指導

1 「生徒の自尊感情を育てる取り組み」

福島県中島村立中島中学校

思春期保健講座を各学年1時間設定している。

目標や希望に向かって内省するとともに、「こんな自分も悪くない」という思いも育てていきたい。

2 「中学校・高校での保健学習における『性に関する』指導」

宮城県柴田農林高等学校

人生設計と妊よう性のあり方が難しい時代になってきている。

助言者から 数見 隆生氏

性教育の必要性を教職員で共有すること。

学力観の歪み・学力形成とは何か・命をつくっている体の学習という視点からの助言であった。

感想

岩手においてもこのような研究がなされ、説得ある講演や研究発表が必要なことを痛感した。今後の自分の実践に最大限に生かしていきたいものと思った。

平成26年度 全国養護教諭研究大会

平成26年8月7日・8日 大分県大分市

遠野市立遠野東中学校 高橋 美智子

8月7日(木)・8日(金)まで 大分市iichiko総合文化センター等で開催された大会に参加してきました。

記念講演では「養護教諭の専門性を生かした『生きる力』を育む健康教育の進め方」と題して大分大学の住田実教授より、小学校で学んだ保健内容を高校生になって母校の小学生に教える「child to child プログラム」という実践研究の様子が話されました。さらに学びを子どもが家族へ、または地域へ広げていく。そして地域社会全体の健康の質の向上を目指すとのことでした。

基調講演では、サブテーマを「養護教諭の職務と課題解決のための保健室経営」と題して、文部科学省の岩崎信子氏より21年の中教審答申を踏まえ、保健管理についての課題として救急処置、健康観察、災害対策、虐待、疾病管理と予防、健康相談について、さらに保健教育や保健室経営について話されました。特に課題解決型の学校保健委員会、保健室経営を考えてほしいとのことでした。

シンポジウムでは、サブテーマを「健康課題解決に

向けた効果的な組織体制の在り方」と題して、コーディネーター関西学院大学 井出浩教授のもと医師、管理職、行政、養護教諭と各々の立場から健康課題解決の取り組みが話されました。共に学び、情報を共有し、一緒に出来る事を探す。そのような組織が、一人の課題ではなく学校全体で取り組んでいく組織になり、成果が生まれ長続きするとのことでした。

課題別研究協議会は第3課題「健康相談」に参加しました。校内組織の連携、家庭や医療機関との連携、心身の健康問題の把握と健康相談の3つの視点からの実践発表でした。

ロビーでは大分の養護教諭の実践を展示した企画展があり、興味深く拝見しました。中身の濃い、充実した研究大会でした。参加させていただきありがとうございました。



全国養護教諭 連絡協議会

平成26年度 総会及び第16回学校保健連絡協議会

去る6月14日(土)、東京都のヒューリックホールにおいて、全国養護教諭連絡協議会の総会並びに「第16回学校保健連絡協議会」が開催されました。

午前は総会と各ブロック別協議会が行われ、総会では事業計画が提案され承認されました。「養護教諭の職務に関する調査」がWeb入力になることや、「東日本大震災における支援養護教諭の調査」が実施される事が報告されました。北海道・東北ブロックの協議会では、理事と役員の輪番確認と新規となる役員選出

委員を決定しました(福島県の羽田湖津枝会長)。

午後の学校保健連絡協議会では「学校保健の推進に向けた養護教諭への期待」～学校環境衛生活動及び保健教育の視点からと題し、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育企画室健康教育調査官 北垣邦彦氏の講演がありました。

詳細はHPや全養連だよりで報告になっておりますので、ご確認ください。

(会長 中沢 亮子)

第49回 東北地区養護教諭連絡協議会

8月4日(月)宮城県民会館にておいて、「第49回東北地区養護教諭連絡協議会」が東北学校保健大会に併せて開催されました。本会は、東北6県と仙台市の養護教諭研究団体で組織され、各県の活動状況や情報を交換しながら諸問題を協議する会です。

初めに岩手県から昨年度の会務および決算、また宮城県から本年度の会務および予算の提案があり承認されました。その後、各県の現状や課題の報告がありましたので紹介します。

「秋田・宮城・仙台市の総会は研修会も兼ねて全員参加としている」こと、「青森・宮城・山形・仙台市では教育委員会との意見交流会を毎年実施している」

ことの報告がありました。各県の研究大会の持ち方や工夫、講師に関する情報交換は大変参考となるものでした。秋田・岩手以外の各県では、事務局や大会会場を持ち回り形式に移行していることもお聞きしました。更にフッ化物洗口についても話題となり、実施期間の長い山形県からは、現在有効性の検証や課題のまとめをしていることが紹介されました。一方どの県でも共通する課題は、退職者数の増加による若い世代への継承のあり方でした。

次年度は福島県での開催となります。

(副会長 佐々木 尚子)

平成26年度の新採用者14名をご紹介します

○小学校	熊谷 織衣さん	花巻市立湯口小学校
	泉田智恵子さん	遠野市立青笹小学校
	大清水麗子さん	一関市立磐清水小学校
	佐川みどりさん	宮古市立門馬小学校
	高橋 由佳さん	岩泉町立小本小学校
	高濱 琴さん	久慈市立侍浜小学校
○中学校	高橋 里奈さん	雫石町立雫石中学校
	高橋 英実さん	宮古市立宮古第二中学校
	来田 香織さん	宮古市立崎山中学校
	林檎美也子さん	久慈市立三崎中学校
	作山加奈子さん	洋野町立種市中学校
○高等学校	及川 明奈さん	岩手県立西和賀高等学校
	伊藤 千果さん	岩手県立金ヶ崎高等学校
○特別支援学校	田中 千尋さん	岩手県立前沢明峰支援学校

編集後記

今年度から、会報「ようご」の形式が横書きとなります。今後の活動内容については、HP『岩手県学校保健会養護教諭部会ようご岩手』や部会誌・研究集録『ようご岩手』をご覧ください。

最後に、発行にあたりお忙しい中、ご執筆いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

(広報部 佐々木美代子、城内 佐江子)